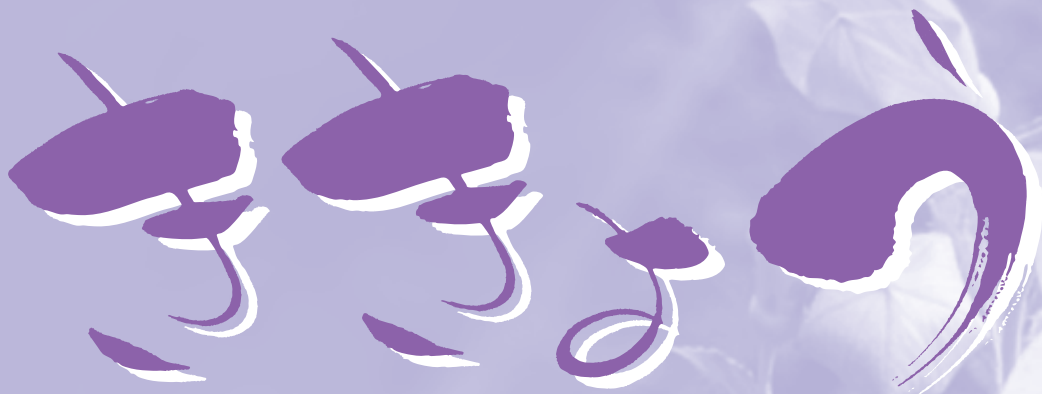




巻頭言／医療、教育など多職種連携によるネットワークを構築、地域生活課題への積極参画が求められる	— 2
「弁当宅配」—給食業務を地域子育て支援に生かす サンヒルズ紫豊館	— 3
「#カイゴでセカイを変える」—プロモーションビデオが完成	— 3
活動体験通し集中力など養う「個別療育」実施 ココリス	— 3
水害&コロナ禍への対応—NHKテレビでせつつ桜苑の実践紹介	— 4
福祉職場オンライン型インターンシップ受け入れ ライフ・ステージ 舞夢	— 5
先輩からのメッセージ 保育、高齢者両部門の若手、中堅スタッフ	— 4～5
コロナ退散願い お祭りだ! ドッコイセ踊りだ!	— 6～7
5歳児の思い出づくりに秋祭り 認定こども園 一津屋愛育園	
園児の写真、手形添え“敬老メッセージ” きりん夜間愛育園	
模擬店のたこ焼きもご入居者と掛け合いお祭り気分 高槻けやきの郷	
「岸壁の母」歌い踊る—人生の大先輩に感謝の会 ライフ・ステージ 舞夢	
トピックス	— 8



稲穂が実る季節感、体感してもらえたかな～ 小さな田んぼで田植えから収穫まで



プランターを利用した田植えを行い、9月14日には中庭でハサミを使って稲刈り。待ちわびたお米の収穫に「初めて稲刈りしたわー」の声が。

お米作りは認知症ケアの観点と稲の成長や季節の移ろいを体感してもらう企画。田植えは5月30日。水を張った小さな田んぼにコシヒカリの苗を植えました。「本当にお米できるの!?!」と疑心暗鬼。育てきた葉っぱをバツタに食べられるハブニングもありましたが、稲穂が実る頃にはホッとひと安心。脱穀、粳摺り、精米…おにぎりにして食べる日まで楽しみが続きます。

澄んだ鳴き声響かせて 命の大切さを学ぶスズムシ飼育

きりん夜間愛育園では7月から、乳児保育室と幼児保育室でスズムシの飼育を始めました。生き物の成長と命の大切さを学ぶ機会になればと願っています。

保育スタッフの一人が自宅で飼育していたスズムシを、鳴く前の状態でもらい受け餌を与えたり、水分を吹きかけたり。ある



日、「かわいい音がする!」と園児の歓声、澄んだ鳴き声を室内に響かせてくれるようになりました。今では土の中に卵が見られ、来年の夏、新たなスズムシとの出会いが楽しみです。

園庭にお地蔵様迎え 拝み方教わり単独の地蔵盆

千里丘愛育園では8月24日、園庭で地蔵盆が行われました。毎年、近隣公園での地蔵盆に招かれていましたが、今年は中止されたため単独開催。

日頃、同園正門前で子どもたちを見守ってくださるお地蔵様に、この日は園庭へお移りいただきお参りし盆踊りも。5歳児の子どもたちは高岡園長から地蔵盆の由来や拝み方を教わり、清々しい雰囲気にお参りできました。



種まきから育てたオクラを味噌汁に 野菜苦手な子も食すすむ

くろみ愛育園のぱんだ組(2歳児)は8月21日、種まきから育てたオクラが立派に育ち収穫、味噌汁の具材に。コロナ禍の影響でクッキング保育を中止していますが、給食スタッフ指導の下、衛生面に十分配慮した食育の一環です。

保育スタッフが「トントン」とオクラを切る音に「包丁、上手や」と子どもたちから拍手。糸を引くネバネバ食感に「納豆みたいや」とそれぞれの表現で、野菜が苦手な子も食が進んだようです。自分たちで育てた野菜を食べる喜びも味わえたひとときでした。



〔法人理念〕

1. 個人の尊厳を旨として、その人にふさわしい最善のサービスの提供に努める。
2. 地域に開かれ、愛され、地域福祉の拠点となる施設経営を目指す。
3. 専門的知識、技術の研鑽に努め、誇れる施設を目指す。

〔サービス目標〕

1. オンリーワンとナンバーワンを目指す。
2. オンリーワンとはその施設にしかない特色の創造であり、ナンバーワンとはご利用者の処遇の満足度を高めるため、常時積極的な取り組みをすることである。

〔老人施設経営方針〕

1. 安らぎのある生活と環境を提供し、生きる喜びを創造する。
2. 介護機能の多様化を図り、ご利用者に対し、総合的なサービスの提供をする。
3. 地域の一員として、地域福祉の活性化に貢献し、超高齢社会のセーフティーネットの機能を発揮する。

〔愛育園経営方針〕

1. 新しい時代に生きる力の基礎を培う。
2. 女性の社会参加の支援に貢献する。
3. 地域子育て支援を積極的に行い、子どもの成長を喜ぶ社会の実現に寄与する。

【発行日】2020年11月

【発行】社会福祉法人 成光苑 (理事長 高岡 國士)
〒566-0001 大阪府摂津市千里丘3丁目16-7
TEL.06-6330-3776 FAX.06-6388-9551
URL. <http://www.onyx.dti.ne.jp/~seikouen/>

★「ききょう」の由来

創業者が愛した京都府福知山市は、冷泉を利用して地元に開放するお風呂を作り、当法人として老人施設を初めて開設した地。その福知山市の花である「桔梗」から名づけられました。「ききょう」の花言葉は「変わらぬ愛」「誠実」「感謝」「気品」。

QRコードで簡単アクセス!



巻 頭 言



医療、教育など多職種連携によるネットワークを構築、地域生活課題への積極参画が求められる

理事長 高岡 國士

日ごろから、社会福祉法人成光苑の事業推進にあり、皆様の多大なご協力とお力添えをいただき感謝とお礼を申し上げます。

国民の負託に応えるよう新内閣に望む

菅義偉内閣が9月16日発足しました。安倍晋三前首相の辞任に伴い、自民党総裁選での各候補者の論戦を踏まえると、やはり国難とも言えるコロナ禍への対応や打撃を受けた社会経済の立て直しといった取り組みをしっかりと継承してほしいとの国民の負託に応えてもらうよう願うばかりです。

今も変わらない私の信念のひとつに女性の社会参加(進出)の支援があります。これまでは、高度経済成長期における第2次ベビーブームの影響で「ポストの数ほど保育所を」という社会的要請に応えるため、保育事業の充実に努めてきました。一方で高齢化社会の進展に伴い介護が大きな社会問題となりました。介護保険制度が導入されるなど介護そのものが社会保障の一部となり、取り巻く環境に対応するため、順次施設整備を進めてきたところです。

福祉が真のエssenシャルワーカーとなるために

時代が変わって、自分自身でも地球が壊れてきているのではないかと思うぐらい災害などの出来事が頻発しています。

新型コロナウイルスのパンデミック(世界的大流行)だけでなく、国全体の累積赤字の膨張に伴う社会保障財政のひっ迫は進行し、現役世代人口の急激な減少で人財確保も厳しくなっています。こうした時代

に福祉が真のエssenシャルワーカーとなり得るのかが問われています。エssenシャルワーカーとは、人々の生命と財産を守るため必要不可欠な仕事に従事している人たちのことを指します。『ききょう』夏号でも述べましたが、コロナ禍を一つの災害と見立て、エssenシャルワーカーとしての就労が阻害されないよう、感染拡大から守るための日常生活、いわゆる「新しい生活様式」を心がける中で生じてくる複雑多様な福祉ニーズに、その支え手として社会福祉法人が対応していくことが重要であると考えています。

先見性のある大阪の応援職員派遣協定

今般、大阪府と大阪府社会福祉協議会との間で、府内の社会福祉施設などで新型コロナウイルス感染症の影響により当該施設に勤務する職員が不足し、その施設が属する法人内の自助で対応できない場合に備え、「社会福祉施設等の応援職員派遣に関する協定」が締結(8月27日)されました。

これから冬を迎えるにあたり、11月以降はインフルエンザ流行の時期であり、新型コロナウイルス感染症との同時感染の可能性も懸念される中、とりわけ入所施設では非常に難しい運営を余儀なくされることを考えると、先見性のある取り組みであると考えます。

他の経営主体にできないトータルなサービス提供

福祉施設間の連携もさることながら、対人支援では、保健、医療、福祉、教育などの各分野の専門職との連携を図り多職種連携による幅広いネットワークを

構築していくことが求められることから、社会福祉法人の側から施設が所在する地域生活課題への対応の一環として積極的に参画するべきと考えます。

地域共生社会の実現のための社会福祉法などの一部を改正する法律案が閣議決定(8月3日)されました。制度や市場原理では満たされないニーズに応えることが期待されているという原点に立ち返り、様々な社会生活上の困難を抱える者に対して、日常生活の支援を含むトータルなサービスの提供など、他の経営主体で担うことが必ずしも期待できない福祉サービスを実践的に実施、開発していく必要があります。

いまこそ「和顔愛語」の神髄を理解しよう

この時代こそ成光苑のスタッフ全員が「和顔愛語」の真髄を理解し、「優しい笑顔で人々に関わり、思いやりの心と言葉をもつて地域住民と交流すること」により、われわれと関わりのある人々を笑顔にしたいと思っています。そして、地域全体の課題を公的サービスにつないでいく架け橋となり、子どもや高齢者のみならずすべての人を対象に支え合いの総合支援体制つまり地域共生社会づくりに寄与していきたいと思

います。成光苑のそれぞれの部門において従事していただいているスタッフへのエールの意味も込めて、これからも様々な場面に遭遇することになると思いますが、真摯にその役割と責務を積極的に果たすことで、法人として一丸となり、さらに精進してまいりたいと考えておりますので、関係者の皆様には、今後変わらぬご支援ご協力をよろしくお願い申し上げます。

コロナ退散願ひ ドッコイセ踊り！

岩戸ホーム

初めての施設内夏祭り 入所、在宅別の場所、時間設定でコロナ対策徹底

岩戸ホームは8月6日、恒例の夏祭りを開催しました。毎年地域合同で開催していますが、今年は新型コロナウイルスの感染防止のため初の試みとなる施設のみの実施となり、入所部門と在宅部門の開催場所を分離、開催時間を区切るなど対策を徹底しました。

例年のように盛大というわけにはいきませんが、チンドン屋に扮したスタッフが宣伝のため施設内を練り歩き、駐



サンヒルズ紫豊館



多彩な味覚にスイカ割り、祭囃子に誘われホールに

サンヒルズ紫豊館では7月26日、施設内ホールで夏祭りを開きました。例年、広い駐車場で地域のみなさんと一緒に開催していますが、今年は施設内実施に切り替え、コロナ不安から解放される日を願ひドッコイセ踊り(福知山音頭)で締めくくりました。

ご利用者のみなさんは、祭囃子に合わせスタッフ手作りの団扇を揺らしながら会場のホールへ。模擬店の鉄板焼き、お好み焼き、ちらし寿司、かき氷など多彩な味覚を楽しまれ、例年参加の福知山淑徳高校の学生ボランティアさんからは特製の焼きそばも届けられました。スタッフの寸劇「よいしょー!」の掛け声に合わせて4名のご利用者が木刀でスイカ割りに挑戦、見事に命中する場面もありました。

食堂に模擬店 祭りの雰囲気盛り上げ

高槻けやきの郷

サービス付き高齢者向け住宅高槻けやきの郷では8月18日、施設の食堂に模擬店を出店、祭りの雰囲気を盛り上げました。新型コロナウイルスの影響でこれまでのような施設イベント実施が困難なため、「食」に絞った催しに切り替えました。

食堂には、たこ焼き、から揚げ、チョコバナナなど定番メニューがずらり。いずれも食欲をそそるものばかり。厨房スタッフはご入居者に喜んでもらおうと法被姿で準備から気合十分。ご入居者からも、たこ焼き調理スタッフに「手伝おか〜」と声を掛けながらでき上がる様子をのぞき込む光景もみられました。

たこ焼きもご入居者と掛け合いて



ご利用者の生きがいづくりを支援

吹田竜ヶ池デイサービスセンター



吹田竜ヶ池デイサービスセンター(地域密着型・定員18名)は8月25日と9月5日の両日、ディールの二室を暗所にしてプロジェクターを設置、1950年代の名作映画「ローマの休日」を上映しました。テレビとは一味違うスクリーンでの映画鑑賞という雰囲気もあり、ご利用者は最後まで集中して鑑賞されました。

ご利用者からは「この映画をもう一度見ることができてよかった」、「少し若返った気分」などの声が聞かれました。

同センターでは「人に認められたり、楽しいひと時を持てる生きがいを提供し、来てよかったと思ってもらえるデイサービスを目指す」を目標に様々なプログラムを企画しています。

人生の大先輩(ご入居者)への「感謝いっばいの会」

ライフステージ 舞夢(舞鶴市)では9月10、14、18の3日間、「敬老お楽しみ会」を行い、スタッフが「岸壁の母」など劇や踊りを披露しました。戦中、戦後の時代を生き抜いてこられた大先輩方(ご入居者)への「感謝の気持ちでいっばいの会」となりました。



ライフ・ステージ 舞夢

むかし懐かし「岸壁の母」など歌い踊る

「＃カイゴでセカイを変える」プロモーションビデオが完成

入社4年目のスタッフら出演 —介護人材確保の一翼担う—

「＃カイゴでセカイを変える」—高齢者部門京都エリアが制作したプロモーションビデオ(PV)が完成、スタッフは「介護の魅力、やりがいを感じてもらえたら」と願っています。

PVで介護人材確保の一翼を担ってくれたのは岩戸ホーム、サンヒルズ紫豊館、ライブ・ステージ 舞夢の入社4年目の介護スタッフ、それにベトナム人介護技能実習生も参加。岩戸ホームで撮影が行われ、編集・構成は田中実来フリーランスカメラマンに依頼しました。

個人インタビューで「ご入居者の気持ちに寄り添い、生きがいを見出してもらえた時の達成感の喜びは何にも代え難い」と思いを伝えています。スタッフのメッセージが多くの方に届くことを願っています。なお、掲載のQRコードでプロモーションビデオをぜひご覧ください。



高齢者部門
京都エリア3施設



ココリスが6月から「個別療育」実施

人とやり取りをする力を育てる土台作り

ココリス(児童発達支援)は現在、毎週水曜日(午前10時~11時)に地域の未就園児や幼稚園、保育所に通う就学前の子どもを対象に「個別療育」に取り組んでいます。

子どもの発達に合った課題を様々な活動や遊びを通して経験できるよう個別のプログラムを実施しています。先生の提示した課題にしっかりと向き合っており、一緒に活動を楽しみ、できた事を喜び合う経験が“人とやり取りする力”“達成感”“自己肯定感”など

幼児期に大切に育てていきたい力に繋がっていきます。

毎回終了後に保護者の方と療育での様子やご家庭での様子を共有し、様々な相談に対応しています。

お子さんの成長に不安や悩みがある方はいつでもご相談ください。

◆お問い合わせ(☎06-4862-5922 重村、保田、東川)

サンヒルズ紫豊館は京都府社会福祉協議会が立ち上げた「京都地域創生事業(わっかプロジェクト)」に参画、4月から地域で支援の必要な世帯を対象に配食事業(弁当宅配)をスタートさせました。自前(自施設)の給食業務の強みを生かすのが狙い。「母子家庭など働く女性の力になりたい」と成光苑創業者、高岡ひさる氏(初代理事長)が戦後、千里丘保育所(現千里丘愛育園)を開設した創業精神にも沿うものです。

福知山市社会福祉課などから「様々な事情で子育て支援の必要な家庭が食事に困るケースがある」と聞いたのがきっかけ。同市子ども政策室との連携も視野に地域ぐるみで「わっか」をつなぎたいと考えています。



自施設でカバーできる配送件数や対象範囲に限界はありますが、今後は他事業所との連携も視野に地域ぐるみで「わっか」をつなぎたいと考えています。

【わっかプロジェクト】

京都府内の社会福祉法人が協働し地域のニーズに対応した支援を展開、つながりのある地域社会づくりを目指す。現在、成光苑(京都エリア3施設)を含む府内28法人が参画。

宅配弁当

4月からサンヒルズ紫豊館 京都地域福祉創生事業「わっかプロジェクト」に参画

自前の給食業務を地域子育て支援に生かす

5歳児の思い出づくりに秋祭り、お泊り保育も

認定こども園 一津屋愛育園

認定こども園 一津屋愛育園では、5歳児(25名)のお泊まり保育(8月21~22日)と、同じく5歳児親子対象の秋祭り(9月12日)を行いました。お泊り保育は園舎内(これまで是有料施設)で、秋祭りは中止となった夏祭りの代替祭り。いずれも新型コロナウイルスの影響に配慮しながら「年長児に何とか思い出づくりを」と開催にこぎつけました。

お泊り保育は、友だちと過ごすワクワク感がいっぱい。スイカ割り、勇氣(肝)試し、火花など夏の体験も盛りだくさん。翌日には「ここ窓ガラス」に描いてもイイの」と、お祭りは大好評でした。



「パプリカ」の曲太鼓を力強く演奏

認定こども園 正雀愛育園の5歳児

認定こども園 正雀愛育園は8月26日、保護者を招き5歳児(28名)の和太鼓演奏を披露しました。

同園の園児の和太鼓演奏は例年、披露する機会が多いのですが、今年は新型コロナウイルスの影響で全て中止に。この機会に園児の演奏の上達ぶりを保護者のみなさんに見ていただくという趣向。当日、園庭に集ってもらい、子どもたちは「パプリカ」の曲太鼓を力強く発表、一生懸命演奏する姿を見ていただきました。



特製ポストから 手形入りハガキ

第二愛育園

祖父母からは「届いたよ〜」



園児の写真と麒麟の手形に “敬老メッセージ”添え

お孫さんの成長伝える

きりん夜間愛育園

きりん夜間愛育園は9月11日、台紙に園児の写真と手形でかたどった麒麟に「敬老のメッセージ」を添え発送しました。新型コロナウイルスの影響で祖父母と園児が触れ合う集いが開けなくなつたため、楽しみにされている祖父母のみなさんに園児の成長をお伝えしたものです。

また、第二愛育園でも敬老の日になみなみ園児から祖父母に、手形を押したお祝いのハガキを書きました。例年は代表の園児がまとめて近くのポストへ投函しますが、今年はスタッフ手作りの小さなポストを設置、「おじいちゃん、おばあちゃんに届きますように!」と全園児が投函。後日、子どもたちは「おばあちゃんからハガキ届いたよって電話くれた」と報告に来てくれました。



5歳児ストアの
支払いは
手作りスマホで

東生野愛育園

東生野愛育園は7月29日、園庭で「夏まつり」を行いました。例年、卒園児や地域の親子も招きますが、コロナ対応で園児のみの参加。「夏の思い出に」と小グループでコーナーを回れる時間設定など三密対策も万全に。園庭では大きなシャボン玉、スーパードールすくいなど、室内ではドラえもんなどの口にとら焼きを入れるゲームなど。恒例

5歳児クラスの「どう組ストア」はパン屋さん、ジュース屋さんなど出店、手作り飛沫防止パーテーションも設置しました。お会計は、どうペイ(PAY)で、今どきの電子マネーシステム(風)で支払い。子どもたち手作りのスマートフォンの手慣れた使いこなしに、令和の子どもの姿を感じる場面もありました。

保護者から「何もかも中止になることが多いのでありがたいです」といった声が寄せられました。

防護服

スタッフ手作りのコロナ対応

机上パーテーション

吹田竜ヶ池ホーム ポリ袋を活用

吹田竜ヶ池ホームでは、新型コロナや冬に向けてのインフルエンザ、季節性感染症(ノロウイルスなど)への備えとして手作り防護服を作成しています。正規の防護服は一定数確保していますが、特にコロナ禍については未知数。このため事前に準備し万全を期すものです。



手作り防護服の素材は、市販のポリ袋を活用、看護師中心に使い勝手を工夫しています。この防護服を使用することなく、来る冬を乗り切れるよう感染症予防の徹底を図ります。

第二愛育園 給食も楽しく

第二愛育園ではコロナ対策の一つ、対面会話による感染を防止する手作りの机上パーテーションを6月から50セット作成しました。園児にとって楽しい時間、給食の際の対面に配慮したものです。



材料はラミネートフィルムと100円ショップで手に入る引き出しの間仕切りを使ったお手軽DIY。和訳の通り「やってみよう!」という保育スタッフの意見が形になりました。初めは子どもたちも「これ何?」と気になる様子でしたが、「病気、かからんようにしよう」と気遣う姿が見られました。

ライフ・ステージ 舞夢

福祉職場オンライン型
コロナ対応初の試み

インターンシップに短大生2名受け入れ



新たなやりがい、可能性見つける

ライフステージ 舞夢では7月4日～11月8日(土日コース)の日程で「グローバル介護職員初任者研修」を開講、在日外国人2名を含め10代から70代まで幅広い年代層の計16名が文化や世代の垣根を超え意欲的に取り組まれています。研修の介護実技演習では、必要最小限の受講者同士の接触もあることから、感染症対策を徹底、座学を含めた実践的な講座を維持できる

ライフステージ 舞夢は8月、福祉職場オンライン型インターンシップ(京都府主催)で2名の学生を受け入れました。初回オリエンテーションは施設見学とオンラインを組み合わせた「リアル&バーチャル方式」で行いました。コロナ対応として初の試み。

学生は社会福祉士学科を目指す短大生2名受け入れ。期大学1年生と同2年生。1年生は4時間、2年生は4時間。2日。タブレット端末を用いた事業説明のほか施設のリモート見学を行いました。学生対応の窓口は大垣智義生活相談員。舞鶴市加佐デイスイーツセンターなど系列事業所についてもオンラインで説明しました。

介護現場では多職種が協働していることから新人介護スタッフ、ユニットリーダー、スタッフ、看護師らが交代でweb座談会。さらに介護スタッフがモデルとなって画面越しに介護方法の説明を行いました。2年生の学生からは「介護福祉士を目指してみたい」といった感想が聞かれました。



「ベッド上での着脱」テーマに技術研修
身体介護のサービス向上めざす

吹田竜ヶ池ホーム

吹田竜ヶ池ホーム8月21日、身体介護技術研修(ヘルパー部門)を実施し9名が参加しました。今回の研修テーマは「ベッド上での着脱」で、同部門の今年度の目標は「身体介護のサービスの向上」です。

座学は、脱健着看(着替えの原則)やボディメカニクス(身体に負担をかけない介護技術)など着脱時に必要な知識を確認、演習では、スタッフが布団に横たわっているご利用者を想定し、交代で介助者、被介助者を体験しました。サービス提供する環境は、ヘルパー1名でご利用者の自宅などを訪問することが多いことから、「他のスタッフから介助(ケア)のコツを知ることができたことやよりよいサービス提供のヒントを得る機会になった」と不安軽減、自信にもなったようです。

先輩からのメッセージ

「ありがとう」ご入居者からのひとことがやりがい
学びが多く人として成長させてもらえる実感

酒見 勇輝さん

2020年度入社 セツ桜苑

若手

働くなかで感じるやりがいは

ご入居者からの「ありがとう」という言葉にやりがいを感じています。

「ありがとう」は何気ない言葉なのですが、とても気持ちがよく、お互いにより関係が生まれると思います。介助など行った際は私も「ありがとうございました」と感謝を込めて言うように心がけています。

日々、ご入居者のニーズを考えながら仕事をする中で、私の思うやりがいにつながると考えています。

学生みなさんにメッセージを

「介護の仕事」に対して、マイナスイメージのある方も多く聞いています。実際、大変なこと、しんどいことありますが、一方で、この仕事ならではのうれしいこともたくさんあります。

入社してからの学びも多く、毎日のように先輩に相談したりアドバイスもらっています。手厚く支えられていること、一日の仕事の振り返りや人として成長させてもらっていると実感しています。成光苑に入社されたら一緒に頑張りましょう。

学生向け就職ガイダンスを担う

高齢者福祉の魅力を伝え、福祉職を育てるお手伝いを

松田 有里さん

2004年度入社 セツ桜苑

中堅

新人スタッフとの違いはどのようなことがありますか

成光苑に介護職として入社、結婚、出産を経験し、現在、管理職(特養部門課長)の立場です。施設内業務だけではなく、法人プロジェクト会議への参加や就職フェア・セミナーで学生向けに就職ガイダンスも担っており、広い視野で物事を考えないといけないと思っています。

将来のキャリアイメージは

介護福祉士、社会福祉士の実習指導をしています。養成校の教員と関わる中で、授業のゲストスピーカーとして参加させてもらうなど施設外でも自分の経験や高齢者福祉についてお話をする機会が増えてきました。今後も高齢者福祉の魅力を伝える活動を通じ、将来の福祉職を育てるお手伝いをしていきたいですね。

学生みなさんにメッセージを

今年は予期せぬ新型コロナの流行で実習や就職活動がままならない学生さんの苦悩をよく聞いています。当施設では、施設の様子ができるようにホームページブログでも複数事業の活動をタイムリーに発信しています。ご入居者、ご利用者やスタッフの様子もわかりますので、ぜひご覧ください。就職活動での心配があれば気軽に問い合わせください。

生きがいは子どもの成長や笑顔が身近に感じられる時
親身に相談に乗ってくれる先輩保育士が心強い

松葉 真由さん

2020年度入社 東生野愛育園

若手

働くなかで感じるやりがいは

現在、0歳児クラスを担当しています。働くなかで感じるやりがいは2つあります。

1つ目は子どもの成長が身近に感じられた時。入社間もない4月には、お座りだったのに、今では歩けるまでになったこと、苦手な牛乳を美味しく飲めるようになったことなど。2つ目は自分の行動で子どもが笑顔になった時です。絵本の読み聞かせで「もう一回(読んで)!!」と笑顔でせがまれたり、「おいでー」と手を広げると駆け寄ってくれたり、子どもの表情が見られることもやりがいを感じます。

学生みなさんにメッセージを

新型コロナの影響もあり、思っている以上に保育の現場は責任が重いことを実感します。保護者との関わりにも初めは戸惑いました。私は入社1年目、わからないことがたくさんあります。園長や先輩保育士に相談をすると、わかるまで親身になって相談に乗ってもらえますので心強いです。コロナ禍で就活も大変だと思いますが、ひとりで悩まずに、勇気を持って自分から学校の先生や身近な人に相談すること、必ず助けてくれると思います。悔いの残らない学生生活になるよう頑張ってくださいね。

自己研鑽に努め頼られる主任を目指す

スマイルあふれる職場、若者の不安払拭は先輩の役割

平 能 子さん

2010年度入社 東生野愛育園

中堅

新人スタッフとの違いはどのようなことがありますか

転職から成光苑に入社し10年目、主任を務めています。新人スタッフに比べフレッシュさ、動きの機敏さは負けますが、その分、これまで培ってきた保育経験を生かし、様々な年代層のスタッフをマネジメントしながら一緒に保育をすることを心がけて頑張っています。

将来のキャリアイメージは

まだまだ学ぶことも多く、期待に十分応えられるようにと精神面を含め自己研鑽に励んでいるところ。成光苑保育部門はキャリアパス体系が構築されていますので、今後いろいろなことにチャレンジし、頼られる主任となれるよう努めたいと思います。

学生みなさんにメッセージを

就職フェアで学生さんの「保育士になりたい!」という純粋な思い、「はい!」と若者らしい爽やかな返事に接すると、「就活も一生懸命なんだな」と感心。半面不安や悩みもお聞きします。それらを軽減するのも私たち先輩保育士の役割だと思います。

保育士は人と関わる仕事、関わりがあるから喜びや共感・感動する場面に出会います。天使の微笑みといわれる赤ちゃんのエンジェル・スマイルや心の底から笑っている人の顔は左右対称の表情といわれます。成光苑はそんなスマイルがたくさんある職場です。

水害危機とコロナ禍

「命を守る」実践的な備えにスタッフ一丸

NHKスペシャルでせつつ桜苑を紹介

NHKテレビのスペシャル番組「新型コロナと水害危機」あなたは命をどう守る」でせつつ桜苑が紹介され全国放映(6月20日午後9時～9時50分)されました。同施設は摂津市との間で「災害時における福祉避難所の設置運営に関する協定」を締結、高齢者や障がい者の要援護者を受け入れ避難生活への支援を行っています。摂津市では「分散避難」の考え方。これまでの避難所に限らず、知人の家や企業の高い建物など地域の安全な場所のフル活用を推奨しています。自治体や地域の一般企業とも緊密な連携を図り、「被災者の命を守る」実践的な備えにスタッフ一丸となつて努めたいと考えています。

地震発生!津波も! 園児134名2分45秒で全員避難

認定こども園 正雀愛育園

認定こども園 正雀愛育園は9月4日、「第9回大阪880万人訓練」に園児134名、スタッフ23名が参加しました。同訓練は大阪府、大阪市、堺市合同で行われ、南海トラフ巨大地震の発生を想定、「エリアメール/緊急速報メール」の配信などを通じ府民に訓練として災害情報を伝達するものです。

当日は雨天のため避難場所を園舎屋上から3階ホールに変更。9時30分に地震発生、その3分後、津波を想定しモバイルからアラートが一斉に鳴り響きました。防災頭巾をかぶり、いつもと違う雰囲気不安そうな表情の園児もいましたが、スタッフの適切な誘導もあり2分45秒で全員避難できました。



いかのおすし (防犯標語) 忘れないで!

「不審者侵入!」の合図が聞こえると、子どもたちは緊迫した空気を感じ取り、真剣な表情、スタッフは0歳児を抱き避難、1、2歳児はスタッフからの説明を聞き安全な場所に移動一くるみ愛育園では9月4日、不審者対応訓練を行い、全員しっかりと避難しました。

避難後、2歳児クラスは「いかのおすし(防犯標語)」(いかない、乗らない、大声をだす、すぐ逃げる、知らせる)の話に一生懸命聞き入りました。知らない人に声をかけられたとき、被害にあわないための行動を示した監視カメラの防犯標語です。子どもたちはお迎えの保護者に「今日な一、怖い人(訓練の不審者)来てん」と報告する光景もみられました。



くるみ愛育園で
不審者対応訓練